

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

- A
- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
  - b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
  - c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
  - d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

- B
- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
  - b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。  
※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。  
※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス点。
- ③ 正答の要素を含んでいても説明の方向性が全くズれていると判断される答案は0点としてよい。

※ 問一・問三は解答例のみ正解とする。問一の読みが平仮名になっている場合は0点。

問一 解答通り 各2点

A    敏感	B    ソガイ	C    カカ	D    洞窟	E    拾
F    シヨヨ	G    オビヤ	H    触発	I    均衡	J    サンイツ

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点2点  
1点

■模範解答例

A B

動物たちは他の生き物を想像された像として客体化しているのではなく、C

D

体として感知しながら、大きな生命のつながりを生きているということ。

■要素A「動物たちは」…1点

- ・主語（主題）提示。答案の中のどこかにあればよい。

■要素B「他の生き物を想像された像として客体化しているのではなく」…4点

- ・人間のアニミズムの「思考」の説明。「他の生き物（他者でも可）」「想像された像」「客体化（客体視なども可）」という三点が完備されていれば加点してよい。いずれか一つが欠けている場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素C「その存在をリアルな情報の集積体として感知しながら」…4点

- ・この「その存在」は、言うまでもなくBの「他の生き物」をうける。
- ・本文の「（人間以外の動物は）他者の存在を…、リアルな情報の生きた集積体として感知して」に対応する。この説明をほぼそのまま答案に引いても可。「リアルな」または「生きた」のいずれかを欠いている場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素D「大きな生命のつながりを生きている」…3点

- ・本文の「大きな生命のつながりを生きている」をそのまま使って構わない。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 答案の文末は「…（という）こと」という形式が原則。不適切な形であると判断される場合は

1点減点。

問三 解答通り 各2点

A Ⅱウ      B Ⅱウ      C Ⅱア      D Ⅱエ      E Ⅱイ

問四

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点1点

■模範解答例

A      B      C      D  
心の中の幻想的な構造の内部で、他の生命体との関係を思考する人間のアニミズムは、自己の身体、環境世

界と疎遠になり、それらを客体化することを通して成立するということ。

★人間の思考としてのアニミズムについて、Aはそれが生成する場所、Bは思考の対象、C・Dはその成立過程について説明していることに留意して採点する。

■要素A「心の中の幻想的な構造の内部で」…3点

- ・本文の「それ（＝思考としてのアニミズム）は人間の心的構造の内の幻想領域を土台として、そこに
- かたちづくられてきた」という記述に基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「他の生命体との関係を思考する」…3点

- ・本文の「（幻想の構造の内部で、）外部環境やほかの生命体とのつながりを思考する」という記述に基づ
- く説明。これをほぼそのまま答案に使っていても可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自己の身体、環境世界と疎遠になり」…3点

- ・本文の「（人間の心は、）自分の身体からも、またまわりの環境世界からも疎外され」に対応する説明。
- 「…と疎遠になり」は「…から疎外され」でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「それらを客体化することを通して成立する」…3点

- ・これは問二の解答例、要素Bで見たとおり。人間の思考としてのアニミズムでは、自己の身体、環境
- 世界は客体化される。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 答案の文末は「…（という）こと」という形式が原則。不適切な形であると判断される場合は

1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点0点

■模範解答例

A 人類学や宗教学はアニミズムを所与の未開の心性として現象の面から語るだけで、人間性さえ脅かしかねない不可欠の幻想構造とまでは考えなかったから。  
B  
C  
D  
E

■要素A「人類学や宗教学（は）」…1点

- ・主語（主題）提示。答案中のどこかにあればよい。

\* 「人類学・宗教学」のアニミズム観としてB・Cをセットにして答案を吟味する。

■要素B「アニミズムを所与の未開の心性として」…2点

- ・「所与」と「未開」のいずれかを欠く場合、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「（アニミズムを）現象の面から語るだけ」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

\* 「人類学・宗教学」のアニミズム観の欠陥としてD・Eをセットにして答案を吟味する。

■要素D「人間性さえ脅かしかねない」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「不可欠の幻想構造とまでは考えなかった」…3点

- ・「不可欠」（ほぼ同義の説明も含め）を欠く場合は2点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末表現は「…から…ので」という形式が原則。但し、答案が明らかに理由説明の形になっていると判断できれば可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点16点

■模範解答例

A B C

無意識のさらに深部にあって、事物を分離せずに連結し、事物間の相違ではなく共通性を見出そうとし、あ

D E F

らゆる事物を包摂していく全体性を備えた、事物を分離する言語的知性のおおもととなっている、人間の流

動的知性の仕組みということ。

■要素A「無意識のさらに深部にあって」…2点

- ・本文の「無意識なるものさらに奥のほうで活動を続けている対称性の諸活動」に基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「事物を分離せずに連結し」…2点

- ・本文の「ものごとを分離するのではなく、つながりをつくりだし」に基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「事物間の相違ではなく共通性を見出そうとし」…3点

- ・本文の「ものごととの間に違いを見いだすのではなく、違いの中に共通するものを見いだそうとする」に基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「あらゆる事物を包摂していく全体性を備えた」…3点

- ・本文の「あらゆるものごとを包摂していく全体性を備え」に基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「事物を分離する言語的知性のおおもととなっている」…3点

- ・本文の「言語的知性はものごとをシャープに分離して、切り出す能力を持っている」と「言語的知性のおおもとである対称性の思考」とに基づく説明。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「人間の流動的知性の仕組み」…3点

- ・本文に「流動的知性のおこなう作動の特徴」が「対称性」であると述べられていることから、傍線部④は「流動的知性」のことを言っていると判断できる。その判断に基づく説明である。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 答案の文末は「…(と)いうこと」という形式が原則。但し「…構造」の説明として不自然でな

ければ許容。明らかに不適切な文末形式であると判断される場合は1点減点。

## 第2回 名大本番レベル模試

### 二(源家長日記)

問一 ア 配点：9点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a b c d e

この歌の道に 秀でてている人の歌は、 自然と 撰集に漏れることはないに 違いありません。

■要素 a この歌の道に：2点

・「和歌の道」「和歌」であることを明示して②点。「この道」のままは△①点。

■要素 b 秀でてている人の歌は：2点

・「秀でてている・すぐれている・上手だ・技量がある」など同義であれば可。①点  
・「人・者・歌」など「たくみなる」の下に体言を補うこと。①点

■要素 c 自然と：1点

・「自然と・おのずと」①点。「おのづから」の他の訳「まれに・偶然に」は不可。

■要素 d 撰集に漏れることはないに：2点

・「撰集に・新古今和歌集に・和歌集に」などを補う。①点  
・「漏れる・入集されない」+打消。①点 ↓必ず「選ばれる・入集される」も可。

■要素 e 違いありません：2点

・丁寧語「です・ます・ございます」①点。  
・当然「はずだ・べきだ・違いない・当然だ」または推量「だろう」①点。

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一イ

配点：9点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

e

f

私たちが 上の句を 読みますと、 下の句は 後鳥羽院が 全て不足なく完璧にお答えにな  
る。

■要素a 私たちが：1点

・「家長たちが・私たちが」など撰集に関わっている院の周囲にいる者たちが主語であることが  
わかれば可。

■要素b 上の句を：1点

■要素c 読みますと：3点

・「読む」＋丁寧語「です・ます・ございます」＋偶然条件「くすると」 各①点

■要素d 下の句は：1点

■要素e 後鳥羽院が：1点

・「院が・後鳥羽院が」

■要素f 全て不足なく完璧にお答えになる：2点

・「完全に・完璧に・間違いなく」＋「答える・正解する・覚えている」など 各①点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問



問一ウ

配点：9点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a	あちらこちらから	自分の歌を入集してほしいと	申し出ている様子は、	d
b			本当に	e
c				

もしきりである。

■要素a あちらこちらから：2点

・「あちこちから・様々な方面から」など、入集を願う歌人がたくさんいることが分かる表現であれば可。

■要素b 自分の歌を入集してほしいと：2点

・申し出の内容を補う。「自分の歌(①点)を(新古今和歌集に)入選して欲しい(①点)」と同内容であれば可。

■要素c 申し出ている様子は：2点

・「申し上げる・申し出る」など「言う・願う」の謙譲語であること。(①点)  
・「様子」(①点)

■要素d 本当に：1点

・「実に」など うそ偽りなく、本心からそう思うさま

■要素e 雨脚よりもしきりである。：2点

・「雨が降る様子よりも」(①点)  
・「しきりである・頻繁である・回数が多い・絶え間ない・途切れない・混み合っている・密である」など頻度が多いたくさんいることがわかれば可。(①点)

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 エ

配点：9点

- 現代語訳の問題
- 採点方法：各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問
- 模範解答

a

b

c

この家隆の歌の他にも 歌病がありながら新古今和歌集に入集されている歌は やはりもっと

d

あるのではないだろうか。

■要素 a この家隆の歌の他にも：2点

- ・具体的に「家隆の歌・この歌」の「他にも」と述べられていること。 完答

■要素 b 歌病がありながら新古今和歌集に入集されている歌は：3点

- ・「歌病がある」①点＋「(新古今和歌集に)入集されている・選ばれている」②点
- \* 「病がある」は身体的病気の意になるので不可。

■要素 c やはりもっと：1点

- ・やはり・それでもまだ・もっと」など

■要素 d あるのではないだろうか。：3点

- ・丁寧語「です・ます・ございます」①点＋(現在)推量「だろう」①点＋疑問「〜か」①点
- ・ここでの疑問は、婉曲的な表現で真の疑問ではないが、疑問文でも可とする。

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点…12点

- 和歌の解釈の問題
- 採点方法…各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問
- 模範解答

a 夢で恋人に逢うと見たのに、 なんとということもなく 現実の夜は明けてしまったなあ。

d

e

f

むなしい夢だけが あなたとの仲の忘れ形見であり、 忘れることができない。

- 要素a 夢で恋人に逢うと見たのに…3点

・「恋人(あなた)に」①点 「逢う」①点 「夢で見た」①点

- 要素b なんとということもなく…2点

・「普段と変わることもなく・特別なことが何もなく」という内容であれば可

- 要素c 現実の夜は明けてしまったなあ…2点

・「夜が明ける」①点 詠嘆「なあ」①点

- 要素d むなしい夢だけが…1点

・「むなしい・たよりない・はかない」夢

- 要素e あなたとの仲の忘れ形見であり…2点

・「あなたを思い出させる・昔の深い仲を思い出させる」など①点 「忘れ形見」①点

- 要素f 忘れることができない…2点

・「忘れることが難しい・忘れ難い・忘れられない」など②点

- その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三

配点…12点

- 本文全体の内容説明の問題
- 採点方法…各要素単独採点

■ 字数制限無し

- 形式上の不備 ・ 文末は「意図（があった）」などの形式であること。句読点は不問。

■ 模範解答

a

b

c

歌人の身分の上下や

賢愚は撰集の判断に入れず、古今和歌集時代の古風な歌を尊重して

d

e

f

歌に歌病があることも問わず、ただ歌そのものの姿が良いものを基準にしよう という意図。

■ 要素 a 歌人の身分の上下や…2点

- ・ 歌人の身分・家柄の上下に、入選が左右されないことがわかれば可。

■ 要素 b 賢愚は撰集の判断に入れず…2点

- ・ 歌人の学才の有無に、入選が左右されないことがわかれば可。

■ 要素 c 古今和歌集時代の古風な歌を尊重して…2点

- ・ 「古今和歌集時代の歌」を良しとすることがわかれば可。

■ 要素 d 歌に歌病があることも問わず…2点

- ・ 歌に歌病があるかどうか、入選が左右されないことがわかれば可。

「病」は不可。

■ 要素 e ただ歌そのものの姿が良いものを基準にしよう…3点

- ・ 歌そのもの善し悪しで入選を決めることがわかれば可。

■ 要素 f という意図…1点

- ・ 文末表現は「意図」または「意図があった」などで閉めること。

■ その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

★2021年度 第2回 名大本番レベル模試

三 採点基準

※ 60点満点

問一 各2点

- a もとより
- b いはゆる
- c およそ

※解答通り

※カタカナ書きは不可

※送り仮名を含めていないものは不可

※「いはゆる」が「いわゆる」となっているものは△1点

問二 6点

A 3点

この世には

B 3点

一日中机に向かって書物を読む

A

以上の楽しみはない

C

ということ。

### 採点のポイント

A 「至れるかな天下の楽しみ」の要素……3点

※「この世にはB以上の楽しみはない」など。

※「天下」の要素が欠けている△マイナス2点

「Bが最も楽しい」△マイナス2点

「Bが一番の(最高の)楽しみだ」△マイナス2点

B 「終日書案に在り」の要素……3点

※「終日」||「一日中」に1点、「書案に在り」の要素に2点とする。

※「書案に在り」の要素は「書物を読む」の有無で2点。「机に向かって」の有無は不問。

※「机に向かって書を案じている」は不可。

C 文末「〜ということ」の有無はここでは不問。

問三 6点

A 2点

机に向かって読書している時にあたっては、

B 2点

身分が低くても身分の低さなど忘れ、

C 2点

家が貧しくても貧しさなど忘れてしまう。

採点のポイント

A 「是の時に当たりてや」の訳……2点

※ 「机に向かって読書している時にあたっては」、「読書している間は」など可。

※ 「是の時」の内容が無いものは不可。

※ 「この時にあたっては」は不可。

B 「身卑しきも卑しきを知らず」の訳……2点

※ 「知らず」「わからず」などは△マイナス点

※ 「卑しくても」はマイナス点だが、「卑賤であっても」なら可。

C

※ 「家が」はなくても可。

※ 「知らなく」「知らなくなる」「わからなくなる」などは△マイナス点

※ 「身分の低さも貧しさも忘れてしまうということ」のように説明の回答になっている場合は、

B Cともに点を与えられない。

問四 8点

A①2点

書物を読んでいけば

B①1点

戸外に出たり、

C①1点

あちこち見渡してみたりしなくても、

A②

書物の世界に描かれている、

B②2点

古今の景勝地をめぐり歩いたり、

C②2点

さまざまな珍しいものを見たりすることができ、

D

ということ。

採点のポイント

A①A② 前提……2点

※A①が言えていればA②はなくてもよい。

B①「足戸を出でざるも」の要素……1点

B②「古今の勝境に涉り」の要素……2点

※「古今」の要素がなくてもA②のような言い方があれば可。

例「書物のなかで景勝地に出かけることができ」など。

C①「目眸を転さざるも」の要素……1点

C②「古今の変態を観る」の要素……2点

※B②で「古今」に触れていればここになくてもよし。

※「変態」のままのものはC②不可

D文末表現の「ということ」の有無は不問とする。



問五 6点

A 4点

猶ほ

B 1点

千歳の齡を保ちて

C 1点

千歳の事を観る

A

がごとし

### 採点のポイント

※すべてひらがなにしてみましたものは、すべて合っていれば6点からマイナス2点で4点とする。

※読み順のミス、脱字、余計な字「而」「矣」があるものは不可。

A 再読文字「猶ほ……がごとし」ができていること……4点

※「猶ほ」は「なほ」でも可。

※「猶」「猶お」は不可。

※「ゝのごとし」は不可。

※「ゝが猶し」は不可。

B 「千歳の齡を保ちて」……1点

※「齡を」が「を」以外になっているものは不可。

※「保ち」は不可。（「而」があるため「保ちて」と読む）

※「之」を読んでいるものは不可

C 「千歳の事を観る」……1点

※「之」を読んでいるもの、つまり「千歳事」「千歳之事」は不可。

※「事を」が「を」以外になっているものは不可。

問六 8点

A 1点

読書によって

B 1点

家にいながらにして

C 4点

わずかな時間で千年もの出来事を追体験できるのだから、

D 2点

八百歳生きたという彭祖の体験を上回れる

E

ため。

採点のポイント

※AとBはCとDの説明の前提

A 読書によって……1点

B 「一間の屋、三尺の案」の要素……1点

C 「幾百般の事をく観るがごとし」の要素……4点

※C①「わずかな時間で」1点

C②「千年もの出来事を」2点

C③「追体験できるのだから」1点

D 彭祖との比較

※D①「八百歳生きたという」1点

D②「彭祖の体験を上回れる」1点

E文末の「くため」「くので」「くから」の有無は不問とする。

問七 20点

A 2点

B 3点

A

「読書の益」は、物事の道理を究めることができる 点にある

C 2点

D 1点

「読書の楽しみ」は、一日中机に向かっていてだけで、

E 2点

心も体もゆったりして、

F 4点

貧賤も憂いも悲しみも労苦も不幸も忘れ、

G 2点

H 2点

時間を超越して 古今の人物と交わり、

G

I 2点

わずかな時間で 様々な場所をめぐり、

J 2点

C

様々な珍しい出来事を追体験することができる という点にある。

### 採点のポイント

A 「読書の益はく点にある」……2点

B 「之(＝道)を究むる能」う、の要素……3点

C 「読書の楽しみはくという点にある」……2点

D 「徒だ一日書案に隠りて坐せば」の要素……1点

E 「心広く体胖かなり」の要素……2点

※代わりに前後の内容を入れて「心広く体胖かなり」がない場合はマイナス1点

F 「身卑しきもく之が為に脱す」の要素……4点

※卑賤と貧の要素、憂ひの要素、悲しみの要素、労と苦の要素、各1点で合計4点とする。  
※「不平」と「無聊の気」は不問とする。

G 「古今」「傾刻の間」「千歳」などの時間の要素……2点

H 「身古今の人物に交はる」の要素……2点

I 「古今の勝境に涉り」の要素……2点

J 「古今の変態を觀る」の要素……2点

※H I Jのようなことが「( )追体験( )できる」という内容がほしい。